



Good News for Japan とぎのこえ

パイプオルガンを街頭に

藤井 健次



カナダの町を楽器を奏しながら行進するニューヨーク・スタッフ・バンド

キリスト教音楽といえ、厳かな礼拝堂に据えられたパイプオルガンを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。ヨハン・セバスチャン・バッハが作曲した、「トッカータとフーガニ短調」や、コラール「主よ、人の望みの喜びよ」など、パイプオルガンの演奏で有名なこれらのキリスト教の楽曲を、一度は耳にしたことがあるかと思えます。

今から百四十年前の一八七八年、英国でこのパイプオルガンの音色を街頭に持ち出した人がいました。それは、三人の息子と共に金管楽器(ブラス)も奏することができたので、ある時、迫害に窮していた救世軍からの依頼を受け、近くの町で

おこなわれる街頭での伝道を助けることになりました。彼らが賛美歌を金管楽器で演奏すると、不思議なことになり、それまで妨害していた無頼漢たちが、彼らの奏でる音色に耳を傾け、静かになったのです。賛美歌を金管楽器で演奏する「力」を知ったウイリアム・ブラスは一八八〇年、各地にある救世軍の小隊(教会にあたる)に、通達します。

「先般のウエールズ及びコーンウォール各地の集会、さらに先のプリマス、ノッチンガム、その他どこでも、楽器によって多くの群衆を、野戦路傍伝道に、室内集会に引きつけ得ることが判明した。それゆえ、士官(伝道者)と兵士(信徒)は男女を問わず、できる者は誰でも、何か自分に適した楽器を一つ習い覚えるよう、奨励する。各種金管楽器、太鼓その他、主のために喜ばしい音を奏するものなら、なんでも結構である。」

「聖年、金管のみの編成が改めて奨励された」
救世軍のブラスバンドはやがて、「歩

改めて奨励された」
救世軍のブラスバンドはやがて、「歩

一つの話をご紹介します。ずいぶん昔のある日のこと。ノッチンガムのトロント橋の上を、生きる望みを失った十七歳の少女が歩いていました。ちょうどその時、救世軍の一団が近くで「いつくしみ深き」という賛美歌をブラスバンドの伴奏で歌っていました。彼女は、その歌を聞くうちに、その歌に歌われている「友なるイエス」を知り、イエス・キリストを生涯の友として受け入れることができました。クリスチャン

と云われるようになり、賛美歌を金管楽器で演奏すると、不思議なことになったのです。賛美歌を金管楽器で演奏する「力」を知ったウイリアム・ブラスは一八八〇年、各地にある救世軍の小隊(教会にあたる)に、通達します。

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

となつた彼女は、希望と喜びに満ちた人生を歩むようになり、救世軍の士官として伝道者の生涯を送りました。彼女の息子も後に救世軍の士官になりました。

さていよいよ来月、アメリカから救世軍のニューヨーク・スタッフ・バンドを日本に迎えます。二十九年ぶり、二度目の来日です。皆さんにもぜひ、神の愛と救いのメッセージを伝えるそのすばらしい音色を聞いていただきたいと思えます。最後に、聖書の言葉を贈ります。

「主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。主はすべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものを憐れんでくださいます。主よ、造られたものがすべて、あなたに感謝し、あなたの慈しみに生きる人があなたをたたえ、あなたの主権の栄光を告げ、力強い御業について語りますように。」

(詩編145編8〜11節)
(救世軍士官(伝道者))

〈信仰の体験談〉



デヴォン・トンプソンさん

導師は彼を、クリスチャンとしての模範であり、思いやりと情熱をもった若きリーダーである、と評価しています。今では、ドラムやベースギターなど七つの楽器を奏する彼は、救世軍の礼拝でもそれらを演奏しています。しかも、そのすべての奏法を救世軍で身につけました。

―音楽で恩返しを

現在、トンプソンは毎週火曜日、かつて自分が学んだ小隊の音楽教室で、子どもたちに楽器の奏法を教えています。「これは、恩返しです。教えてもらったことを教えているだけ。僕は無料で音楽を教えるてもらいました。誰かの人生に良い影響を与えたい、と思っています。小隊は、僕にとつての大切な居場所です。僕の第二の家なんです。」

―救世軍との出会い
トンプソンが八歳の時、救世軍のマンハッタン・シタデル小隊(教会に当たる)に通うようになりました。小隊でおこなわれていたボーイスカウトの活動に参加したことがきっかけでした。シングルマザーの家庭で三人のきょうだいと共にハーレムで育った彼は、小隊の放課後プログラムと音

この春、アメリカ・ニューヨークより、二十九年ぶりに、救世軍のブラスバンドでも最高峰と言われる、ニューヨーク・スタツフ・バンド(NYSB)が来日、ツアーをおこないます。一昨年、最年少でメンバーに加わったデヴォン・トンプソンさんがこれまでの歩みを語ってくれました。

「僕のためにたくさんの方がそばにいてくれました。その方々によって僕の人生は大きな影響を受け、変えられました。だから僕も、誰かの人生に良い影響を与えたい、と思っています。小隊は、僕にとつての大切な居場所です。僕の第二の家なんです。」トンプソンは現在、小隊のブラスバンドのほかに、いくつかのバンドに所属し、合唱のリーダーも務めています。そして、楽器でも歌でもソリストに選ばれるまでに成長しました。彼の指



音楽教室で教える

「無料の動画配信で見ていた僕のヒーローが、横に座って練習しているなんて、本当に不思議な感覚になります! でも、そんなすばらしい奏者になると、もともとどうまくなりたいと思うし、緊張はしても、練習の最後には、イエス様のすばらしいメッセージを世界中に、一人でも多くの人に伝えたい、という同じ目的で演奏しているという気持ちになれるんです。」

―近隣のオアシスに
マンハッタン・シタデル小隊は、特に貧しい人々のためにある、と小隊の責任者は語っています。「愛されていることを知る場所として、人々はここに来ます。愛されていることを知るのは、子どもたちにとっても大切なことです。多くの子どもが、良い家庭環境にあるとは言えませんが、私たちは、安全な家庭をもたない人々のために存在しているのです。」トンプソンも言います。「救世軍は、子どもたち

バリトン奏者としてNYSBに加わりました。世界最高峰のレベルを誇るバンドに最年少で加わったため、今でもとても緊張するそうです。特に、あこがれの目で演奏を聴き、深く感動したユーフォニアム奏者アロン・ヴァンダウィールについて、

―転機

トンプソンがクリスチャンとしての大きな転機を迎えたのは、二〇一三年に開かれた、救世軍の青年の集まりの時。イエス様を自分の救い主として心から信じていることができました。神様との個人的なつながりが確立された時でした。



での困窮者への給食活動にも参加しています。



世界最高峰の救世軍金管バンド

ニューヨーク・スタッフ・バンド (NYSB) 29年ぶりに来日!



ニューヨーク・スタッフ・バンド楽長 デリック・ランスの横顔

プロフィール

昨年 1 月よりニューヨーク・スタッフ・バンドの楽長を務めるデリック・ランスは、救世軍の小隊 (教会にあたる) で金管楽器奏者として奉仕する両親の元に生まれた。幼少から救世軍で楽器に触れる機会の多かった彼は、ドラムに始まり、ホルネットへと楽器を転じる。14 歳から正式に音楽教育を受け、やがてジュリアード音楽院で学んだ。

NYSB の楽長になるまでの 5 年間、救世軍のアメリカ東部の本部で音楽部門の働きに従事し、音楽活動に関わる広報から運営、後進の指導に取り組んだ。現在、その部門の責任者でもある。

「音楽は、神様のすばらしい福音を人々にお伝えする良いツールだと思います。音楽を通して、あらゆる世代の様々な環境にあるどんな人とも良い交流ができ、技術指導によって、人々の能力や指導性なども豊かにすることができるからです。」

ランス楽長は、自身の所属する小隊で礼拝を守り、小隊の運営を担う役員としても熱心に活動している。仕事で小隊での礼拝に参加できない時にも何らかの形で協力を惜しまないように心がけている、と言う。

「私は特に、音楽を通して若い人々に働きかけることに使命を感じています。一人でも多くの人生が、救世軍の音楽を通して、良いものへと造りかえられるように、と願っています。」

〈NYSB ジャパン・ツアー日程〉

- 3月20日(火) 19:00 ニューヨーク・スタッフ・バンド・コンサート in 大阪
ザ・シンフォニーホール
 - 22日(木) 18:30 第2回 救世軍チャリティーコンサート「子どもたちの未来のために」
東京オペラシティコンサートホール (招待券方式)
 - 23日(金) 18:00 ニューヨーク・スタッフ・バンド・コンサート in 東京
ギャラクシティ西新井文化ホール
 - 24日(土) 11:30 千代田区プラスフェス バレード、ロビーコンサートもあり
- お問い合わせは、救世軍本営 NYSB2018ツアー事務局 (03-3237-0838) へ

NYSB は 130 年の歴史をもち、複雑なオーケストラ楽曲を高度な技量によって奏で、パイプオルガンを彷彿とさせる荘厳で立体的な演奏から、賛美歌の伴奏まで、金管楽器を自在に用いて、神と人々に喜ばれる奉仕を続けてきました。その卓越した音楽性は、ニューヨーク・フィルハーモニックの首席トランペット奏者として活躍したフィリップ・スミス氏等、多くの名奏者を輩出するなど、救世軍内外の音楽に多大な貢献をしています。

が安心して信頼できる人がいる場所です。そのために僕は小隊にいます。子どもたちにとって、家では得られない、彼らの人生にとつての模範となるような先輩でありたいのです。」

トンプソンは、自分自身の心と信仰生活を豊かにすることを常に心がけています。携帯電話に毎日聖書の言葉が届くように設定して読み、救世軍でおこなわれる礼拝で、魂の栄養を取っています。

「日曜日の礼拝に参加することは、すべての始まりです。火曜日の音楽教室の時にも、お祈りの時間があり、もちろん水曜日の NYSB の練習でも祈りの時をもっています。」

子どもたちは未来です

「練習のない日にも、クリスチャンとしてしっかりと生きるよう心がけています。イエス

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
- キリスト教についてもっと知りたいです。
- 『ときのコえ』の購読を申し込みます。

ご住所
ご氏名



演奏前にも必ず祈る時をもつ

様は、僕にとつて一番大切な方だからです。イエス様に似た者として生き続けるなら、僕の人生も、すべての人の人生も、もっともつと良くなるでしょう。」

トンプソンは今大学で学び、将来は救世軍で働き、音楽を教えたいと希望しています。

「僕のような年代の青年が子どもたちを導くことが重要だと思っています。青年たちは、自分が経験したことを通して、年の近い後輩たちを教え、彼らが様々な経験を乗り越えていくための道を示す存在になれるからです。」

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナー (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈インド〉サイクロンの被災者支援

2017 年 12 月 1 日 (金)、大型サイクロン「オキ」による大雨と強風は、インド南部に位置するケララと、タミル・ナードゥ両州に大きな被害をもたらしました。88 人の死亡と 800 人の行方不明が伝えられています。(12 月 20 日現在)



海岸沿いに住む何千もの人々の家が流され、洪水や土砂崩れによる被害も広大な地域に及んでいます。現地の救世軍は、被害の状況を把握しつつ、まず食料と飲用水、衣類、寝具のほか必要最低限の日用品を 600 世帯 (子ども 1,200 人以上を含む) に配布しました。

現在、海岸沿いに住む人々は数箇所の仮設キャンプ場に分かれて避難しています。救世軍は、仮設キャンプ場への支援を継続し、そのために、英国の救世軍本部からだけでなく、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド等の救世軍からも支援のための資金が提供されました。現地の自治体と協力し、被災者に

何の差別もなく支援する救世軍に対して、各地で謝意をいただいています。

〈日本〉東日本大震災被災者継続支援

○12 月 2 日 (土)、東京・等々力陸上競技場で開催された「陸前高田ランド冬」に参加した、就労継続支援 B 型事業所@かたつむりさんの活動を支援しました。この催しは、川崎フロンターレと陸前高田市との友好協定「高田フロンターレスマイルシップ」のもとで開催され、陸前高田から多くの店舗が出店しました。救世軍は、「海老ばっとう」汁等の販売の援助とお茶の提供をおこないました。



○12 月 19 日 (火)、福島県より東京・東雲に避難している方の自治会「東雲の会」が開催している「サロン」に前年に引き続き参加し、クリスマス会を開催しました。サロンは、情報交換や心身共に健康を維持するための集まりです。

江東区社会福祉協議会の方と共に、サロンに参加した方とバンドアンサンブルやキーボードに合わせてクリスマスや日本の歌を歌い、ケーキとお茶を楽しみながら交流の時をもちました。救世軍からは、30 組のぜんざいと餅をプレゼントしました。



救世軍とは

国際的なプロテスタントのキリスト教会で、聖書に示された唯一の神を信じています。そのモットーは、「心は神に、手は人に」で、人々の必要に応えながら神の愛を伝えていきます。



ム・ブースが、東ロンドンの

スラム街で働きを始めました。彼は、当時の社会の最下層にいる人々に、一番必要としているもの—温かい食べ物、清潔な衣類、宿泊所、また教育などの提供をおこない、物心両面からの救いを目指しました。やがて、より多くの人々や社会の必要に応えるため、統率力と機動力に富んだ軍隊流の組織を取り入れて、全世界にその働きを広げていきました。

現在、百二十八の国と地域で救世軍の働きが進められていますが、どの国においても創立の精神は脈々と受け継がれています。街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、高齢者の介護、アルコール依存症者の回復支援、災害

被災者の支援などがおこなわれています。



山室 山室 軍平が全国各

地で上映されています。救世軍は、日本においても、失業者への職業斡旋や免囚保護、廃娼運動の推進、結核療養所設立など、社会福祉や医療面の働きにおけるパイオニアとして活動してきました。現在は、時代と共に変化してきた様々な社会の必要に応える働きを進めながら、四十三の小隊 (教会にあたる)、十二の分隊 (伝道所にあたる)、二つの病院 (ホスピス併設)、十九の社会福祉施設を通して、神の愛を伝えていきます。

第2回 救世軍社会鍋俳句コンテスト

- ◆募集内容：社会鍋を題材にした未発表作品、一人2句まで
- ◆応募方法：郵送 (ハガキ不可)、ファックスでの送付、救世軍ホームページ応募フォームから
- ◆締め切り：3月31日 (消印有効)
- ◆賞：優秀賞1句、特別賞2句、ほのぼの賞3句
- ◆結果発表：『ときのこえ』6月1日号紙上、公式ホームページ
- ◆選者：三浦喜代子氏 [日本クリスチャン・ペンクラブ代表] 他
- ◆送り先、問い合わせ先：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 TEL 03-3237-0881 救世軍本営「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係 FAX 03-3237-3588

受賞式は、6月開催の創立記念コンサート席上を予定。ふるってご応募ください



映画『地の塩 山室軍平』上映中!

新潟・新潟シネ・ウインド 2月24日(土)〜3月9日(金)

順次 仙台、広島で公開予定

山室軍平 日本人最初の救世軍士官 (伝道者) であり、キリスト教伝道とともに、明治大正・昭和初期における社会福祉、医療の面に大きな足跡を残した人物。その生涯と、日本における救世軍の草創期が描かれている。



軍平役 森岡龍と妻機恵子役 我妻三輪子

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部四〇円 (六〇円) 十五日号一部六〇円 (六〇円) クリスマス特集号十二月一日号 一部一〇〇円 (七〇円) 一年分二二六〇円 (送料七五〇円) 振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営 編集人 寺澤 真由子 印刷人 代表者ケネス・メイナー 〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町一十七

電話 東京(03)三三七一〇八八一 発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)